

仲間規範意識を育てる学級づくり

—望ましい人間関係づくりと自発的、自治的な学級風土づくりを通して—

長期研修員 金子 茂雄

現状と課題

国の方針

●改正教育基本法第6条

「学校生活を営む上で必要な規律を重んずる」ことが大切



生徒の実態



○問題行動の増加 ○規範意識の低下

規範意識を高める必要がある!!

**仲間規範の影響
が大きい!!**

中学生の規範となるもの
教師規範、親規範、仲間規範、社会規範など

「規範」とは、判断・評価などの基準となるものです

中学生という時期は、教師よりも友達からの影響を受けやすく、友達の言動が気になる、友達に合わせて行動しようとする姿が見られます。また、自己主張が強く、自分たちが納得しなければ、規範意識の定着化を図ることは困難です。そのため、教師の一方的な指導や価値観の押しつけではなく、生徒一人一人が、よりよい学校生活を送れるように自分たちでルールやマナーを守ろうとする意識を育てることが大切です。

生活の基盤は学級である

仲間規範意識を育てる学級づくりが必要である

仲間規範意識を育てるとは「誰もがよりよい学校生活を送れるように、友達とよい影響を与え合い、自分たちで望ましい判断をして行動しようとする意識(仲間規範意識)を育てること」です。

友達とよい影響を与え合える

望ましい人間関係づくりが必要!!

自分たちで望ましい判断をして行動できる

自発的、自治的な学級風土づくりが必要!!

研究のねらい

「友達との交流のよさを体感する活動」

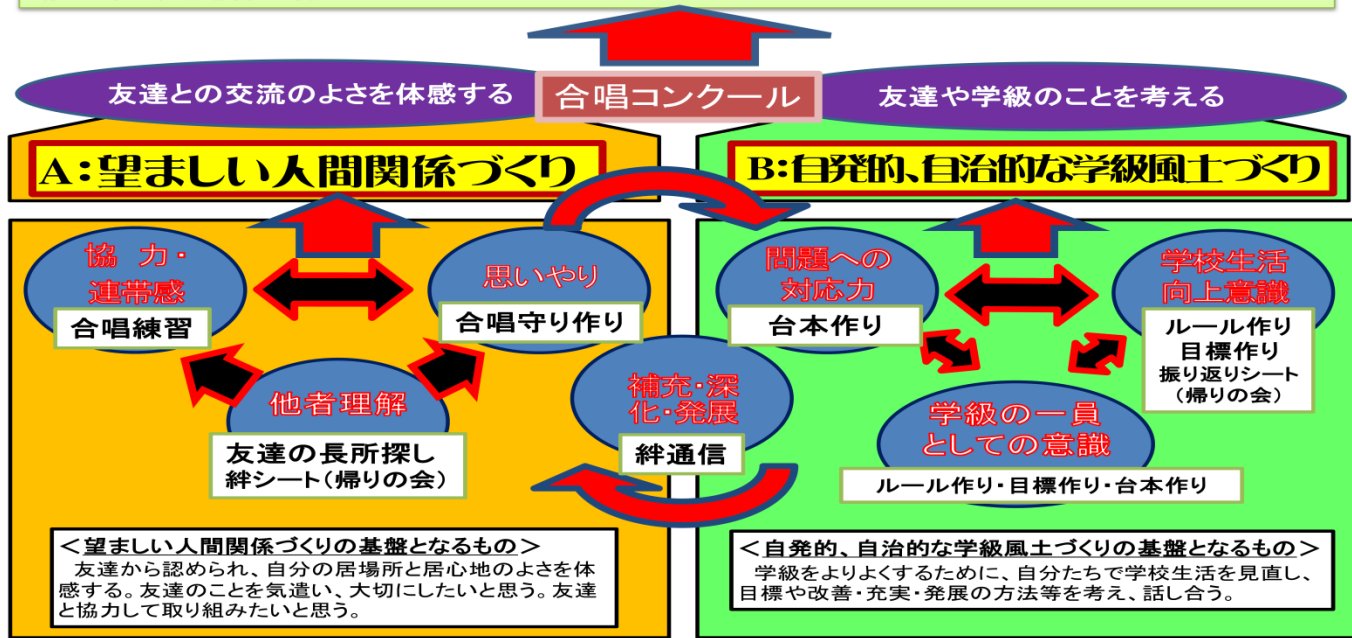
「友達や学級のことを考える活動」

「望ましい人間関係づくり」と「自発的、自治的な学級風土づくり」を行って仲間規範意識を育てていく

研究の内容

仲間規範意識が育つ

誰もがよりよい学校生活を送れるように、友達とよい影響を与え合い、自分たちで望ましい判断をして行動しようとする意識が育つ



<望ましい人間関係づくりの基盤となるもの>
 友達から認められ、自分の居場所と居心地のよさを体感する。友達のことを気遣い、大切にしたいと思う。友達と協力して取り組みたいと思う。

<自発的、自治的な学級風土づくりの基盤となるもの>
 学級をよりよくするために、自分たちで学校生活を見直し、目標や改善・充実・発展の方法等を考え、話し合う。

実践計画 A: 望ましい人間関係づくり B: 自発的、自治的な学級風土づくり

対象	研究協力校 中学校 第2年生34名				
期間	平成23年10月3日～11月11日 7時間				
時間	学級活動5時間 道徳2時間 帰りの会12回				
分類	月日	主 題	ね ら い	養いたい力	帰りの会
A	10/3	実践1 学級活動 「友達の長所探し」 ※友達の長所探し	○友達のよさを見付け、他者理解を育てる。	・他者理解 ・思いやり	10/ 4～10/14 (週2回 全4回) 「友達のいいところ探し」 (他者理解) A ※絆シート使用
B	10/12	実践2 学級活動 「学級をよくするためのルールブックを作ろう」 ※ルール作り	○ルールやマナーの意義を理解し、よりよい学校生活を送るために必要なルールやマナーを作り、学級の一員としてルールやマナーを守ろうとする意識を育てる。	・学校生活向上意識 ・学級の一員としての意識	10/17～10/27 (週2回 全4回) 「合唱練習を頑張っている人探し」 (他者理解) A ※絆シート使用
B	10/17	実践3 学級活動 「感動を与える合唱を目指そう①合唱目標作り」 ※目標作り	○合唱コンクールの意義を理解し、合唱コンクールの学級目標と個人目標を作り、学級の一員としてよりよい合唱に仕上げようとする意識を育てる。	・学校生活向上意識 ・学級の一員としての意識	10/19～11/16 (週2回 全4回) 「ルールブックと合唱目標を振り返る」 (学校生活向上意識、学級の一員としての意識) B ※振り返りシート使用
A	10/24	実践4 学級活動 「感動を与える合唱を目指そう②合唱守り作り」 ※合唱守り作り	○学級全員に対して合唱コンクールに向けたメッセージを書き、合唱守りを作ることによって友達を思いやり、協力して取り組もうとする意識と連帯感を育てる。	・思いやり ・協力・連帯感	
B	10/19	実践5 道徳 「クラスの一員として行動しよう」 内容項目「集団生活の向上、役割と責任」 ※台本作り	○学級の問題を解決するには、一部のみに任せるのではなく自分の役割と望ましい言動を考えることで、学級の一員としてよりよい学級づくりに参画する意識を育てる。	・問題への対応力 ・学級の一員としての意識 ・思いやり	
B	10/26	実践6 道徳 「見て見ぬふりはしない勇気を持とう」 内容項目「正義、公正・公平、思いやり」 ※台本作り	○いじめられている友達の気持ちと自分が行うべき言動について考え、学級の一員として思いやりや正義感を持ち、見て見ぬふりはしない態度を育てる。	・問題への対応力 ・学級の一員としての意識 ・思いやり	
A	11/2	合唱コンクール	○合唱学級目標達成に向けて練習の成果を発揮することで友達とやり遂げた達成感と連帯感を味わう。	・連帯感	
A	11/11	実践7 学級活動 「今までの振り返り今後について考えよう」	○合唱コンクールまでの取組を振り返り、成果を確認することで、全員でやり遂げた達成感、連帯感を味わい、今後より一層よい学級にしていこうとする自主性育てる。	・連帯感	
B	11/11	実践7 学級活動 「電車のマナーを考えよう」	○電車内でのマナーを理解し、公共心を養い、学校の一員として意識する。	・学校の一員としての意識	

A:望ましい人間関係づくり

友達の長所探し

学級活動「友達の長所探し」

他者理解、思いやり

- ①友達のよさを見つけて班で発表する。
- ②友達の意見を聞いて、知らなかった友達の一面を知る。友達から自分のよさを伝えてもらう。
- ③よさを認めてもらい、嬉しい気持ちになる。自分のよさを発見する。
- ④友達を大切にしたい、これからも友達のよさを見つけないという気持ちになる。



楽しそうに友達のよさを話し合っていました

合唱守り作り

学級活動「感動を与える合唱を目指そう②」

思いやり、協力・連帯感

- ①合唱コンクールの目標をふまえて、全員に応援メッセージを書き、合唱守りを作る。
- ②合唱学級目標に向かって友達と一緒に合唱練習を頑張りたいという気持ちになる。
- ③よい合唱にしようとする学校生活向上意識が高まる。同じ目標に向かって友達と一緒に頑張っていることで連帯感が高まる。

<まとめ>

- 友達のよさを考え、伝え合うことで、嬉しい気持ちになることと友達のよさを見つけることは大切であると体感でき、他者理解を深めることができた。
- 合唱目標と合唱守りをつくって練習したことで、目標に向かって全員で協力して取り組もうとする態度を育てることができた。



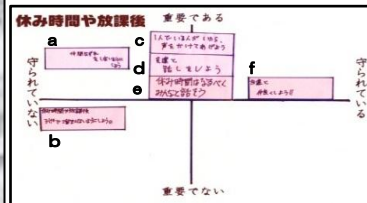
B:自発的、自治的な学級風土づくり

学級をよくするためのルール作り

学級活動「2年〇組のためのルールブックを作ろう」

学級の一員としての意識 学校生活向上意識

- ①よりよい学校生活にするためのルールを考え、付箋紙に書く。
- ②班になって、**KJ法**を用いてまとめる。班で場面（学習、仕事、休み時間）ごとに1つにまとめる。
- ③学級のよいところと改善したいところを知り、学級に必要なルールを作る。
- ④学級をよくするために決めたルールだから、**ルールを守ってよい学級にしたいという気持ち**を育てる。



- a:仲間はずれをしないようにしよう
b:休み時間や放課後ろうかたまたまないようにしよう
c:1人である人がいたら声をかけてあげよう
d:友達と話をしよう
e:休み時間はなるべくみんなと話そう
f:友達と仲良くしよう!!

台本作り

道徳「見て見ぬふりはしない勇気をもとう」

学級の一員としての意識 問題への対応力

- ①いじめの資料を読み、台本1をロールプレイする。
- ②いじめの加害者、被害者、傍観者の気持ちを考える。
- ③被害者の心の支えになる台本を作り、ロールプレイをする。
- ④友達への心の支え方を考え、思いやりの気持ちを育てる。
- ⑤加害者を注意する台本を作り、ロールプレイをする。
- ⑥注意の仕方を考え、学級の一員として見て見ぬふりはしない正義感を育てる。

役	台本
加害者	「あそこ、もう僕達いじめろのせいでさ。」
被害者	「やめなよ!お前達、と見とただけ、助けが来たじゃないか!!」
傍観者	「やめなよ...でも、もう見とらんない。お前達、いじるとないじゃん。」
加害者	「別にお前には関係ないから。」
被害者	「関係ある! 親戚だから!!」
傍観者	「...」



生徒が作った台本です

<まとめ>

- 自分たちで学級のルールをつくったことで、守るべき行為の基準が統一され、自ら守ろうとする意識が生まれ、自発的、自治的な学級風土をつくることができた。
- 与えられた問題を自分の問題としてとらえることができ、問題を解決するための具体的な行動を考えることができた。台本作りを通して、問題への対応力、学級の一員としての意識、思いやりの気持ちを育てることができた。

実践結果より

「仲間規範意識アンケート結果」より

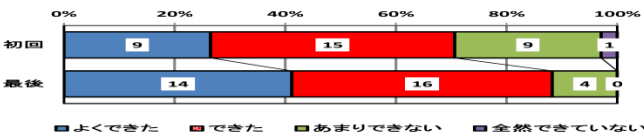
(数字は、「あてはまる」と「だいたいあてはまる」を合わせた数、回答数34)

	事前	事後
私は友達の話をもじりにじっくり聞いている	28	32
友達はあなたの話をもじりにじっくり聞いている	24	29
私は友達が元気がないときに励ましている	27	32
友達はあなたが元気がないときに励ましてくれる	28	32
私はクラスの友達と協力して取り組んでいる	29	32
私は友達が授業中におしゃべりをしたら注意する	13	18
私は友達が仕事をサボったら注意する	20	24

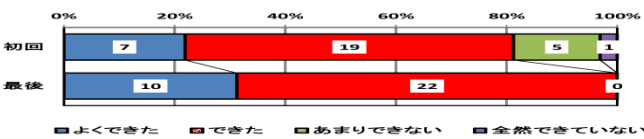
事後の方が、他者尊重、思いやり、協力、学校生活向上意識の態度が育ったと考えられる。このことは、仲間規範意識が高まったことで、学級の誰もが安心してよりよい学校生活を送れるように判断し、行動しようとする態度が育ったと考えられる。

「学級のルールブックと合唱目標振り返りシート」より

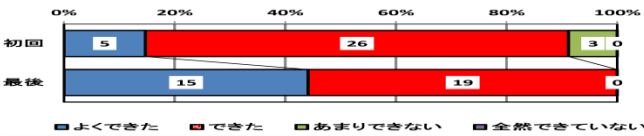
①あいさつをしよう



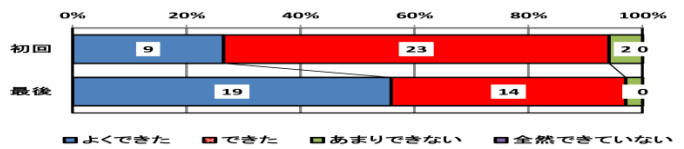
②仲間外れはせず、一人いる人を見かけたら声をかけよう



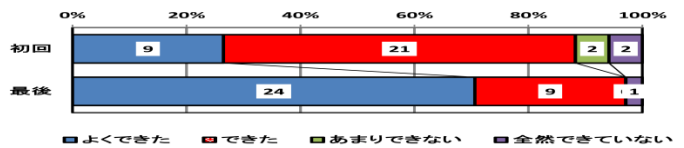
③おしゃべりをせず発言をちゃんと聞くようにしよう



④仕事をするときには協力しよう

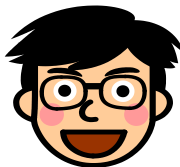


⑤合唱学級目標



自分たちで決めたルールを守り、目標を達成しようとする意識は、すべて初回よりも最後の方が高まった。このことは、ルールブックと目標を定期的に振り返ることで、仲間規範意識が高まり、よりよい学級にするために行動しようとする態度が育ったと考えられる。

まとめ



成果

- 学級活動と帰りの会において、友達の長所探し、合唱コンクール練習、友達への応援メッセージ作りを友達との交流のよさを体感しながら行ったことで、他者理解、協力、思いやり、連帯感を養え、望ましい人間関係をつくることのできた。特に学校行事である合唱コンクールに視点を与えたことで、**協力、連帯感が強まった。**
- 学級活動において、学級をよりよくするためのルール作りと合唱コンクール学級目標作りを行った。また、道徳の時間において、諸問題への対応や解決方法を考えて台本作りを行った。学級や友達のことを考えながら行ったことで、学級の一員としてよりよい学級にしようとする意識を養え、**自発的、自治的な学級風土がつけられた。**
- 望ましい人間関係づくりと自発的、自治的な学級風土づくりを行うことで、友達や学級に対して望ましい行動をしようとする意識を育てることができ、その結果、**仲間規範意識を育てることができた。**

課題

- 合唱コンクールなどの学校行事でなくても、日常生活で協力や連帯感などを体感できる場面や方法を検討し、年間指導計画を作成することで、仲間規範意識をより効率的に効果的に高めることができると考えられる。
- 問題への対応力を育てるために、実態に即した課題を定期的に取り上げ、解決方法を考え、ロールプレイなどを行っていく必要がある。
- ルールブックは、作って終わりではなく、随時見直し、自分たちの学級に合うものに変更していくことが必要である。また、重点目標を設けたり、軽重や期限を考えたりすることも必要である。



問い合わせ先

群馬県総合教育センター
担当係：生徒指導相談係

0270-26-9217 (直通)